

精華会アメリカ支部のシンボルの花は、真冬の寒さの中、春が来るのを待ちきれず、そつとうつむきかげんに咲き出すクリスマスローズ (Helleborus)。優雅な草姿は、冬に咲く花の貴婦人のごとく、このアメリカで強く明るく生きている築女を見るようです。クリスマスローズは、キンボウゲ科ヘレボルス属の多年草。様々な色、バラエティに富み、丈夫で寒さに強く育て易い性質、安心して楽しめます。



春 2011年

第二号

第二号の内容

1 ページ:

* 編集者ご挨拶

* 精華会アメリカ支部第一会例会のご案内

* 精華会アメリカ支部会員各々のアメリカの面白い点、好きな点寄稿

2 ページ、3 ページ、4 ページと続く。

2011年の主な事柄

* 精華会アメリカ支部便り第二号を2月に仕上げ3月初めに全会員、精華会事務局へ郵送する。

* 精華会アメリカ支部第一回例会が10月29日(土)ホノルルにて開催

* 2012年に精華会アメリカ支部のウェブサイト制作の作成考慮中。世界中の築女とのネットワークを目指しています。

* 筑紫女学園精華会のウェブアドレスは

<http://www.seikakai.com>

* プログラムの案、会に対してのご意見、下記までご連絡下さい。

machikofa@msn.com

360-652-6938 (night)

Dear Chikujyo Girls,

お元気ですか? 今年も早いもので一月も終わり二月、走り出しましたね。ここノースウエストは感謝祭、クリスマス前後の雪、厳しい寒さを除いては、朝晩冷え込み霜など出るものの中は40-50Fぐらいになり、黄色い鮮やかな水仙の蕾が一杯、春がそこまで来ているようです。東海岸方面では、去年のクリスマス頃から雪が続いており、中西部でも大吹雪で飛行機のキャンセルがあいついでいると聞いています。さらに、NHKニュースでは東北地方が記録的大雪で電車不通、道路渋滞と家屋の二階まで積もった雪風景を映し出していました。東海岸、中西部の皆さん、大変ですがもうしばらくの辛抱です。確実に暖かい春が日々近くなってきています! まだまだ寒い折より、お体を大切にして下さい。

去年に、精華会事務局のお力添えによりまして、正式に精華会アメリカ支部となり援助金を支給して頂き、めでたく精華会アメリカ支部第一回例会の運びとなりました。幹事のサリバン玲子さんが、すでに会場の予約をして下さったので確実にになりました。今のところ精華会アメリカ支部出席者予定は12人となっています。詳細は下記をご覧ください。

時: 10月29日(土)

11:00am

会場:

Hawaii Price Hotel Waikiki

100 Holomoana St.

Honolulu, HI 96815

Tel: (808)956-1111

<http://www.princehotels.co.jp/waikiki>

プログラム:

1. 開会の言葉
2. 全出席者の自己紹介
3. 2010/2011年度行事と会計報告
4. 2012年度行事予定案及び予算案
5. 盛り沢山ヘルシーブッフエランチ
6. ハワイアンバパフォーマンス

例会参加費: 80ドル

昼食の12時から閉会の3時までご主人、お友達、ご親戚など同伴の合流可昼食、エンターテイメント込み参加費お一人60ドルです。

日本国内からの参加者で、ホノルルへの往復航空券、ホテル、シャトルなどの手配が必要でしたら、こちらで予約出来ます。早いほど安いチケットの購入可能。

ご出席の予約申し込みの締め切りは6月15日と迫っておりますので、お早めに私共まで、イーメール machikofa@msn.com、もしくは電話 360-652-6938へ、お申し込み下さい。

アメリカ国内からの出席者、精華会アメリカ支部会員には、航空券以外のホテル、レンタルカーなどの予約も出来ますので、必要であればお早めに、直接に幹事のサリバン玲子さん

rmkoko@hotmail.com, 808-396-5474へ

ご連絡ください。日本のお友達、ご家族とホノルルで再会、友好を暖め合うチャンスです、前もって知らせてあげて下さい! 例会後、ゆっくりとハワイ観光をお楽しみください!

ホノルルでお会い出来るのを楽しみにしております! アロハ

精華会アメリカ支部第二号はニューヨーク在住の浦崎あけみさんの案でアメリカの好きな点、面白い点。難しいテーマとの声々もあり原稿期限延長し、嫌いな点でも結構とし、まとまりました。皆それぞれの見方が面白いです。お忙しいところ、ご寄稿して下さいました。皆様一人一人のご協力とサポートにかかっています。築女のチームワーク今後とも、どうか宜しくお願います!

匿名

昭和52年卒 ニューヨーク

アメリカの好きな点は色々ありますが、その一つは“何でもあり”の面白さです。

この国にいと、色々な面で雑多多様な社会である事を感じますが、特に私の住むNYは、常に全米はもちろん世界中から多くの旅行者や移住者が集まってくる街なので、ことさらそれが実感されます。外見はもちろん、言葉、文化、信仰、習慣、服装、経済力、背景、価値観、道徳観、意識レベル、食べるものから聴く音楽まで、あらゆる面で違う人々が、それぞれの目的でここに来て、同じ時間や空間をシェアしています。皆違う事が前提ですから、他人の目や評価をあまり気にせず、それぞれが自分らしく生きていて、誰も少々の事では驚かず、結果的に非常にユニークな個性、発想、才能に出会う楽しさがあります。そして、それらが混ざり合う街には、独特のパワーやバイタリテイがみなぎっています。

野中やす子

昭和22年卒 コロラド州在住

1963年にコロラド、デンバーに来て住み着いて今日に至っています。仕事でほとんど旅行もせず、広いアメリカの他州の事はあまり書けません、私には住めば都のデンバーです。私が来た頃のデンバーはCow townと云われた様に、山の中の田舎町という感じでしたが、道は広くのどかで近所や人の目を気にせずに暮らせ、アメリカって何て住みよい所だろうと思いました。10年も経つと、オイルブームに乗って、ダウンタウンはみるみる内に変わって行きました。今でも新しいビルや家が空地を埋めて昔ののどかさはいなくなりましたが、大きなビルや、どんな人が住むのだろうと思われる家の大きさに、さすがアメリカと思われまふ。とにかく今の所、デンバーは災害が少なく感謝して住める所だと、ロッキー山脈の冬の山は素晴らしいです。オハイヨー州に嫁いだ娘はI miss mountain と、いつも云います。リタイアした今は10人の孫に恵まれマゴマゴしています。夏は花や野菜作り、暇々に趣味のアート〔日本人形作り、貼り絵など〕を楽しみ、のんきで忙しい毎日。健康を与えられ一日一日を感謝し、過ごしています。

加藤裕子 (旧 大石)

昭和43年 カルフォルニア州

私はカルフォルニアのロングビーチに住んでいるので、まずは一年中気候が良い事です。何と言っても真っ青な空が素晴らしい、くよくよ悩む気がしません。塀のないグリーン芝生も開放的です。アメリカ人は私の知っている限り、楽天的でフレンドリーです。私も子供も沢山の親切なアメリカ人に助けられてきた事に感謝しています。

尾西美紀子 (旧 田中)

昭和45年卒 シカゴ近郊在住

1970年代末に渡米し数年で帰国する予定が早いもので30年余りの滞在となりました。米国の良い点、好きな点を改めて考えてみますと、**1. 初対面でも気軽にコミュニケーションが出来る。****2. 物事をはっきり言え、意見の交換が容易な為自己表現がし易い。****3. 個性が尊重される。****4. 個々に合った生活空間環境を選び易い。****5. クオリティライフを過ごせる風土や環境がある。**異文化の日本社会に20代半ばまで過ごした私はキリスト教の基盤があり多民族国家のアメリカ生活に直ぐに慣れ親しんだ訳でもありませんでした。身近に居るアメリカ生まれの息子達にもジェネレーションギャップの上にカルチャーギャップを感じ戸惑いを感じながら育てて来ました。これからも日本人の良い所、アメリカ人の良い所を吸収し一生の課題ですが、国際人(?)となれる様、頑張っていきたいと思ひます。

カルフォルニアは人種の坩堝で、違った言語、宗教、文化習慣を持った人が多いところなので、お互いに違って当たり前だと思っています。只、自己主張が強かったり、謝らない人がいたりして、ガッカリする事もあります。銀行の窓口、スーパーのレジでもそういう人がいました。その点、日本の社員教育は行き届いていて、日本へ行くとサービス業の細やかさに感心しています。この時期、車で2時間の山でスキーが出来、海ではサーフィンをしている人もいます。毛皮を着ている人もいればタンクトップで歩いている人もいます。衣替えなどが無いせいか、季節に関係なく自由です。自由で心が開放さ

Nelson 年子 (旧 柳)

昭和42年卒 アイダホ州在住

昔々、築女学生の頃に恋焦がれたアメリカ。音楽、ファッション、生活様式、気さくで温厚なアメリカ人、レーデーズファースト、開放的で寛大、映画、その他諸々のアメリカンカルチャーがカラリと透き通った明るいブルーに見え、鬱陶しいグレーな日本を飛び出して遣って来たアメリカ、30数年経った今でもその気持ちは余り変わってはいないように思ひます。ただヒップホップやラップには最早付いていけません。日本もあれから近代化を続けて経済的にもアメリカに迫り着き、物が溢れ、万事痒いところに手が届くような便利な国になり誇り高い事と思ひます。そして楽しくて美味しい物だらけな日本！でも、外国に暮らしているといつも今住んでる国と日本を比較してしまひます。そしていつも行き着く事は、日本は狭くて人が多過ぎる事。ちよつと出掛けるには人に揉まれ、街で見かける人々は皆忙しそうに小走りに急いでいるようで、それを見ただけでもどっと疲れまふ。日本に里帰りしては忘れがちな日本の“狭さ”を毎度思い起こされて痛感し、その後、広々としたアメリカに戻ってくると心身共に休まりここに住んでいる事に癒され感謝する次第、**このゆとりあるアメリカの広さが私のアメリカの一番好きな点です。**アメリカならではの面白い点は、働いていた頃に色んな人種の方々と一緒に仕事をした事で、あの頃は興味深い事を沢山の人の人から学びました。

れるところ、時間と空間〔住宅、道路の幅〕が大きいところはアメリカの良さだと思ひます。

上野あたま (旧 吉田)

昭和19年卒 オレゴン州在住

去年、90歳になる福岡在住の姉に会っておこうと、久方振りに飛行機にりましたが、ロングフライトは思ひの外大変で、以来ゆつくりと過ごしております。

国本嘉代子 (旧 藤田)

昭和21年卒 シカゴ近郊在住

アメリカを素晴らしいと思ひた事の一つに広大な国、土地、自然が想ひ浮かびまふ。いつも帰国の度に、この土地を少しでも日本へのお土産に出来たらなあ夢の様な事を考えまふ。一部のアメリカの人々の自由な考え方は、この広大な土地柄国柄なのだろうと40年経った今でも考えさせられてまふ。1970年代には、ヨーロッパからの移民の開拓精神を友人を通じて感じ、この方々、祖先の方々がアメリカを育てあげられたのだと感じまふ。アメリカの悪い点は、シカゴ近郊住居のみで広言は出来ませんが、淋しく感じるのは個人主義が徹底し、日本の様に相互援助が見られない事です。何事も前もって予約とビジネスライク的で心の余裕がない様感じられます。私は戦中派で戦争を経験しているせいか、助け合う事の大切さが身に沁みているせいか、アメリカはクリスチャンの国なのと思ひます。今の日本も人情が紙の如く薄くなったと聞いてまふますが、何処の国も同じような社会観なのではないでしょうか。悪い点といつても人間としてどうあるべきかと問いつつ人間の心の大切さを思ひ日々です。昭和一桁の私は、アメリカの広大な自然より、箱庭的な日本の美しさが大好きと強く思ひます。今は健康が一番大切で、健康保険の問題は次の課題とし、以上と致しまふ。

Sulis 佐藤 純子

昭和43年卒 イタリア在住

イタリアは貧乏国ですが、良いところもたくさんあって数えるときがありませんが、私の今回経験した救急病院でも、応急処置はすべて無料、救急の場合どんな人でも治療が受けられます。イタリア国籍を持たない人も、外国移住者も、難民も、お金のない人もです。教会や牧師さんの問題は、いつもありますが、色んな所で、教会を中心に又は、宗教には関係なく慈善活動も行われていて、ホームレスや、その日食べはぐれた人たちに無料で暖かい昼食や夕食を提供している人々の数も多い、人は冷たくありません。イタリアの好きな点は、**自由、情、賢明**です。自由と賢明である事は、実は深くかかわりあっているように思えます。イタリア人の夫は“今の政権を考えると、国民が賢明であるとは言えない”と笑いますが、テレビの影響を受けて市民の知的レベルは確かに下がっているかもしれません。けれども、私はやっぱり知性や理解力、聡明といった意味をもつインテリジェンスをまず挙げたいです。そして、**知**というものに支えられた自由こそ、イタリアの素晴らしいところではないかと思えます。**個人の自由**を阻止しないので、天才や発明家が出やすいのです。そして、イタリアには**地**にエネルギーがあって、コンコンと湧く泉のように、いつも何かフレッシュなものがあるのを感じます。きっとファッションの世界には、イタリアの留まらない流動的な**気**が現れているような気もします。昔から、ヨーロッパの人達にとって、憧れの地であったイタリアは、又、世界中の人達を惹きつけて止まないようですが、それはこんな理由があるかもと、美しいだけではなく。

Vigneault 正子 (旧 中牟田)

昭和44年卒 コネチカット州

アメリカのどんな所が好き？ 今回のテーマ、なかなかこれといった所が出て来ません。アメリカ人の主人に“どんな所が好き？”と聞くと、“全部好きだよ”と即返事が返って来ました。こちらに住むようになって40年近くになります。昔はアメリカのすべての事に感激したり、驚いたり感化される事ばかりでしたが、最近はこの国のネガティブな事ばかり目に入って来ます余にも自由で便利、物の豊富な生活環境に慣れてしまい、この国の根本的な素晴らしさを忘れてしまったようです。昔の思い出ですが、東京オリンピック(1964年)の時にスポーツを通して、ユナイテッドステイツ、本当の意味のUnited=色々な人種の集まった国の底力を見たような気がしました。多くのゴールドメダルを獲得、アメリカ国歌をオリンピックテーマソングだと思い違いする程でした。今回のテーマはこのように私に、もう一度感謝の気持ちを持って、この国を再発見する機会を与えてくれました。ありがとうございます。

宮島説子 (旧 猿渡)

昭和56年卒 カルフォルニア

育ち盛りの3人の子供の世話、仕事探しと大忙しの日々を追われ、今回は間に合いませんでしたので、次回へ。

Raska 佳子 (旧 本田)

昭和37年卒 カルフォルニア

ついに予定通りに、この夏休みは孫娘と福岡へ遊びに行き、筑紫女学園を案内します。姉たち、同級生とも交流を深めたいと思っています。日本に住めるなら日本に住みたい、日本が大好きです。

Sullivan 玲子 (旧 安河地)

昭和45年卒 ホノルル在住

フラという伝統の舞踏文化はハワイ人の魂。**クム**と呼ばれる師匠の言葉は絶対的で、誰もが畏敬の念を抱く。ハワイの子供達は、歩けるようになるとフラを覚え、目上の人への尊敬の心をも身につける。その**アロハ、スピリッツ**は、日常生活の中に、とても心地よく優しく存在している。多民族の集まるハワイを**癒しの島**なんて呼ばせる所為はここにあるのでしょうか。**アロハ、スピリッツ**とても気に入って好きです。お金持ちもそうでない人も、Tシャツとゴム草履のハワイの休日。週末のビーチや公園、いつもどこかで、人々が集まり、パーティ、パーティ。法律上、公共の場でのお酒は禁止ですが音楽と海さえあれば感じ。南の島の住民たちは陽気でパーティがお好き…と、かく言う私も、笑顔で御呼ばれ、...BBQとポットラックの普段着のパーティ。それがハワイ流、皆陽気に集い、面白いです。

Ganung あずさ (旧 森)

平成06年卒 シアトル在住

他人に干渉しない。人の目をあまり気にしなくて良い。アメリカに来てすぐの頃〔3月末〕、バスに乗ったら右にダウンジャケットの男性、左にビーチサンダルにショートパンツの女性が座っていて、あー、ここはアメリカなんだと実感した。**年齢を気にしなくてよい**。就職の際、求人欄には“女性30代まで”などの年齢制限もないし、ましてや履歴書に年齢を書く事もないカレッジ〔特にコミュニティカレッジ〕には、下は飛び級の高校生から、上は両親より年上の人までが通っており、色んな年代の人と友になれる

Faught 真知子 (旧 西田)

昭和43年卒 シアトル郊外在住

アメリカを面白いと好きになったのは、中学校から始まった英語の授業。しだいに、アメリカ映画に現れるハンサムで優しい憧れの男優たちの言っている事がわかってくる楽しさ、アメリカンポップスの音に浮かれ、はまっていた。二十歳の単独アメリカ大陸横断旅行、そのだだっ広さにあきれ、その大きさに圧倒され感動した時もアメリカを好きと思ったけど、本当の意味でアメリカ、アメリカ人を理解し好きになったのは、日本を出て15年近くも経っていた。その頃は、サンフランシスコ近郊に住み、シリコンバレーのメモリー半導体製造会社で働き、大勢のアメリカ人社員たちと、世界市場シェアを増やそうと頑張っていた。高学歴、最新の知識、出来る者が上に来る完璧な能力主義。ボスは私より20歳ほど若く、スマート、親切な可愛いお兄さん。古い日本の年功性、男尊女卑の常識が弾け、能力主義の熱いエネルギー、チームワークに燃えた。一般に、アメリカ人は日本人と比べ働かないようなステレオタイプのイメージがあるのだがアメリカのエリートはゴール達成のため長時間働く。只、ちゃんとその分のバケーションを取り、リフレッシュして職場に戻り、仕事が効果的に始まる。この現場の経験で、**おばさんでも、外国人でも、女でもやる気あり一生懸命に仕事をやり遂げる事で、皆と同じように公平に評価を受け、それなりの報酬が頂けるという事を体験し、アメリカの懐の大きさに敬服、益々アメリカが面白く好きになったというわけ**です。

お詫び：限られたスペース上、長い前置きなどを省き、テーマのポイントから入っておりますので、ご了承下さい。

Machiko Faught

5529 Silvana Terrace Rd.
Stanwood, WA 98292

Havens 節子 (旧 久世)

昭和31年卒メリーランド州

アメリカ社会に40年余り住んで生活してみて私の感じた事を以下に述べます。1. **離婚、再婚の家庭が殆どで**、その為か小さい頃から子供は独立心が養われる。2. **色々な宗教が存在する**が建国以来、キリスト教の国なので、助け合いの精神が強い事。3. その昔、**銃を片手に西部開拓**を行ってきた国故、皆家に銃が一つや2つある。結婚当初、私の主人もその一人で、これは自己防衛だとのたまう。厳しい取締りは出来ないのかと思う。4. **アメリカ人の死に**

対する考え方も我々アジア人と大いに異なる。人が撃たれて殺されるとたまたま悪い時に悪い場所に居合わせて運の悪い奴と平然としている。一度異人の葬儀に参列して全く驚いた。皆教会で歌って踊ってハレルヤと賑やかな事。これってキリスト教と仏教の死に対する考え方の違いなのかもしれない。5. **自動車大国アメリカ**も今や自動車産業が傾き、国の挺入れが行われる有様。一体この国の公共の乗り物の少ない事、大都市を除けば殆ど皆無に等しい。この大きな大陸を日本の新幹線のような超特急列車が横断したら

一体、どのくらいの時間で走らんだろうと考えてみると面白い何となく取り留めの無い事を心の赴くまま書きました。

鐘ヶ江美智枝 (旧 須佐)
昭和21年卒 コロラド州

よく学びよく遊べ: 日本では小学校から塾通いを始め、大学に入学するまで親も子も勉強で大変。アメリカでは塾に通わせる事はなく、うちでは一度も“勉強しなさい”と叱った記憶はありません。亦、アメリカでは大学入学試験も高校の全国で同じSATとACTのテストを受けそれを希望の大学へ提出するの

が習いで、特別な大学以外は日本の様に難しい入学試験を受ける制度がありません。高校でも勉強の他に自由時間もあり、フットボール、アイスホッケー、バンド等々のクラブ活動に入り、応援に出かけたり結構楽しく過ごせましたお陰様で長男はUCLA卒業、人材派遣の会社経営、娘はSanta Barbara (CA)大学卒業後、この地区の教育委員長の秘書をしています。**夏休み:** 学校は9月に始まり5月に終わる、その長い期間に一つも宿題がなく、安心して夏休みを利用して日本へ里帰り出来ました。私たちが日本の学校へ通っていた頃は、沢山の宿題があり大変苦労した事を覚えて居ります。